

平成23年度組織目標 (区分 課の目標)

(環境政策課)

組織の使命	滋賀の環境の保全のため、びわ湖の日30周年を機に暮らしの中で遠くなったびわ湖とのつながりをとりもどすきっかけづくり、事業者による環境汚染防止の自主管理の促進によるびわ湖の負荷を低減、体系的な環境学習推進の支援、職員の能力の向上のための部独自研修などをすすめます。
-------	---

組織目標	目標設定の理由	目標値 (いつまで・どこまで達成するのか)	23年度目標値	目標達成にむけての 実施方策・スケジュール
職員の意欲を能力につなげる 研修の充実	環境行政に携わる職員の意欲を、問題解決能力や専門的能力の向上につなげるために、研修の充実を図る。	新任職員研修は年度のなるべく早い時期に、環境担当職員実務研修は年間を通じて随時実施し、多くの職員の参加を求める。	・新任職員研修の実施 ・環境担当職員実務研修の実施	・新任職員研修 5月実施 ・環境担当職員実務研修 23年5月～24年1月
体系的な環境学習推進の支援	平成23年3月に策定した「滋賀県環境学習推進計画(第2次)」の重点的な取組の方向を踏まえ、体系的な環境学習の推進を図る必要がある。	・平成26年度までに幼児自然体験学習指導者実践学習会参加園を100園(累計)とする。 ・平成26年度におけるエコ・スクール実践校を20校に拡大する。	・平成23年度の幼児自然体験学習指導者実践学習会参加園 25園 ・平成23年度のエコ・スクール実践校 10校	体系的な環境学習推進支援事業の実施 ・幼児の自然体験型環境学習の推進(自然体験プログラムの改訂・開発による学習内容の充実) ・エコ・スクール推進事業の実施(県教育委員会との連携による本事業の周知、および発表会や知事表彰制度の創設による実践意欲の向上) ・環境学習の状況調査の実施(状況把握による取組の掘り起こし)
びわ湖の日30周年事業の推進	暮らしの中で琵琶湖や水辺とのつながりを意識することが少なくなってきたため、「びわ湖の日」30周年を契機に、琵琶湖と関わる取組が広く展開されるよう、そのきっかけづくりを行う必要がある。	「みんなで琵琶湖をきれいにする」に加え、「豊かな琵琶湖を取り戻すこと」「琵琶湖にもっと関わること」につながる取組が平成24年度以降に継続的に展開される。	・「びわ湖の日30周年事業」参加者が見つけた琵琶湖の価値をアンケートにより把握するなどしてとりまとめ、冊子、県ホームページで情報発信。	県および関係機関が次の3点を柱として実施する「びわ湖の日30周年事業」の全体総括 ・びわ湖の日30周年に関する幅広い啓発、情報発信 ・琵琶湖の価値やびわ湖の日の意義を考えるきっかけづくり ・琵琶湖のこれまでの取組をふりかえり、今後を考える機会の提供

組織目標	目標設定の理由	目標値 (いつまで・どこまで達成するのか)	23年度目標値	目標達成にむけての 実施方策・スケジュール
環境汚染防止の自主管理の促進	事業場からの環境負荷については、各種環境法令により規制等の措置がなされているが、昨今、全国的に自主管理に関して不適正な事案が頻発していることから、事業場における適正な自主管理を促進し、環境汚染事故の未然防止等を図るなど健全な地域環境保全を図るため、事業場への立入指導を継続的に実施する	県内事業場において健全な地域環境保全のための自主的な環境管理が実践されている状況の創出(終期設定なし)	立入事業場数:200事業場	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による工場立入調査を実施する。(通年) ・立入担当者会議を開催し、立入方針、重点指導項目等について、課題共有、情報交換等を図る。(年2回) ・立入時や企業担当者研修会等において工場の自主管理を支援するためのツールである「チェックシート」を提供し、その活用を促す。(通年)

註:区分には重点目標1,重点目標2,課・事務所目標ごとに別葉とすること。